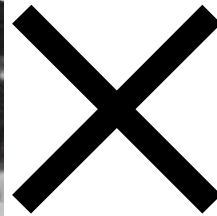




Kindergarten



Nursery school

共働きの家庭も増加したことから、子育て支援に対するニーズはますます高まりました。

こうした中①保護者の就労の有無で利用する施設が限定されてしまう②少子化により、幼稚園と保育所が別々に設置されていると子どもの成長に必要な規模の集団が確保されにくい③子育てについての不安や負担を感じている保護者への支援が不足しているなどは課題として指摘されていました。

これらの課題を解決するため、国では18年10月から「認定こども園」制度をスタートさせました。

町が置かれている状況

町内でも少子化は急激に進行しています。1990年には千人を超えていた0歳～4歳までの子どもの数は、2010年には約半分の550人になりました。20年後の2030年には、約340人にまで減るという試算も出ています。

こうした少子化に加え、「早朝から夕方までや夏休みなどの期間に預かり保育をしてほしい」、「仕事をやめても同じ施設で預かってほしい」、「子どもに集団生活を体験させたい」など保護者のニーズも多様化してい

こども園はどんなところ

こども園は、就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する一体的な施設です。保護者が働いている、いないにかかわらず、0歳児から5歳児であれば、だれでも受け入れ、教育・保育をします。集団活動や異年齢交流に必要な子ども集団の規模を守るとともに待機児童の問題も解

特集 猪苗代の 新しい「子ども教育」 始まります

保育所と幼稚園の機能が一つになり、「こども園（仮称）」が誕生します。24年4月からのスタートに向け、整備が始まりました。

ます。保護者が働くために保育所に入所させたいが、保育所が定員オーバーで、入所待ちの状態になっているという状況も多く見られました。

このような状態を解消するためにはどうすれば良いのか、町教育委員会では、幼稚園、保育所について、有識者らによる検討委員会を設置し、19年8月から21年9月までの間、検討を重ねました。

検討の結果、幼稚園を統合して保育所と連携した「こども園」を整備し、幼児教育・保育の充実を図るとともに、子育てしやすい環境づくりに配慮する提言をまとめ町に提出、こども園の整備が決定したのです。

こども園になっても、保育所と幼稚園の位置付けが変わるわけではありません。子どもたちは、年齢によって、0歳児から2歳児までは幼児保育部門として、3歳児から5歳児までを幼児教育部門として、保育・教育を受けます。

幼児の心身の健全な発達を図るとともに、保護者の子育てを支援するため「長時間利用（預かり保育）」も実施することも園は、幼稚園と保育所のそれぞれの良いところを生かしながら、両方の役割を果たすことができます。施設ということができます。

社会環境の変化に対応

急速な少子化の進行や経済情勢の変化などにより、子育てをめぐる社会環境は大きく変化しました。核家族化が進む一方で、

消できます。また、子育てへの相談活動など、地域における子育て支援活動をする機能も備えています（詳しくは6ページ）。

子育て支援センター

こども園のもう一つの特徴に子育て支援センターの設置があります。

子育て支援センターは、こども園に通園していない子どもがいる保護者が、通院、看病、冠婚葬祭や私的な理由などによって家庭での保育が困難な時に、子どもを一時的に預けられる施設です。また、子育てに不安を抱える保護者の相談にのったり、親子の集いの場を提供したりす

る場所でもあります。そのほか、地域の子育てについて相談や助言などをし、より良い子育て環境を作るためのサポートをします。

【子育て支援センターの業務内容】

●育児不安などについての相談指導

地域の子育て家庭の保護者や児童（以下「子育て家庭」という）に対する相談指導をすることともに、各種子育てに関する情報の

提供や援助を実施します。そのほか、実施可能な施設では、看護師や保健師が保健に関することなどの相談にのります（写真はイメージです）。

●特別保育事業（一時預かりなど）の積極的実施・普及促進

地域の保育需要に応じた乳児保育や特別保育事業を積極的に実施するとともに、地域における特別保育事業などの普及促進に努めます。



川東地区こども園の概要

町では、長瀬川を挟んで東側に川東地区こども園（仮称）を、西側に川西地区こども園（仮称）を整備する予定です。

川東地区では、24年4月からの開園に向けて、川桁保育所と併設した幼稚園舎の整備に入りました。これは、みどり幼稚園と長瀬幼稚園を統合した施設です。川東地区こども園の整備計画、管理運営計画と今後のこども園整備計画などについてお知らせします。

【整備計画】

○全体の敷地面積

6400平方メートル、（川桁保育所420平方メートル、今回整備する幼稚園舎1980平方メートル）

○全体床面積

1509・69平方メートル（川桁保育所662・48平方メートル・幼稚園舎847・21平方メートル）

○構造

木造一部鉄筋造 平屋建

○今回整備する幼稚園舎

3、4、5歳児3保育室（各年

1保育室）長時間利用室（預かり保育室）、遊戯室、調理室、玄関・ホール・廊下など、トイレ3カ所（多目的トイレ含む）

○子育て支援センター

事務室、一時預かり保育室・相談室（川桁保育所内に設置）

○改築箇所

現在の川桁保育所遊戯室を職員室に改築

【こども園の管理運営計画（案）】

こども園の運営は、幼稚園と保育所のそれぞれの良さを生かすため、管理運営計画を策定し園児の保育に取り組みます。

○保育の年輪

川桁保育所を幼児保育部門と

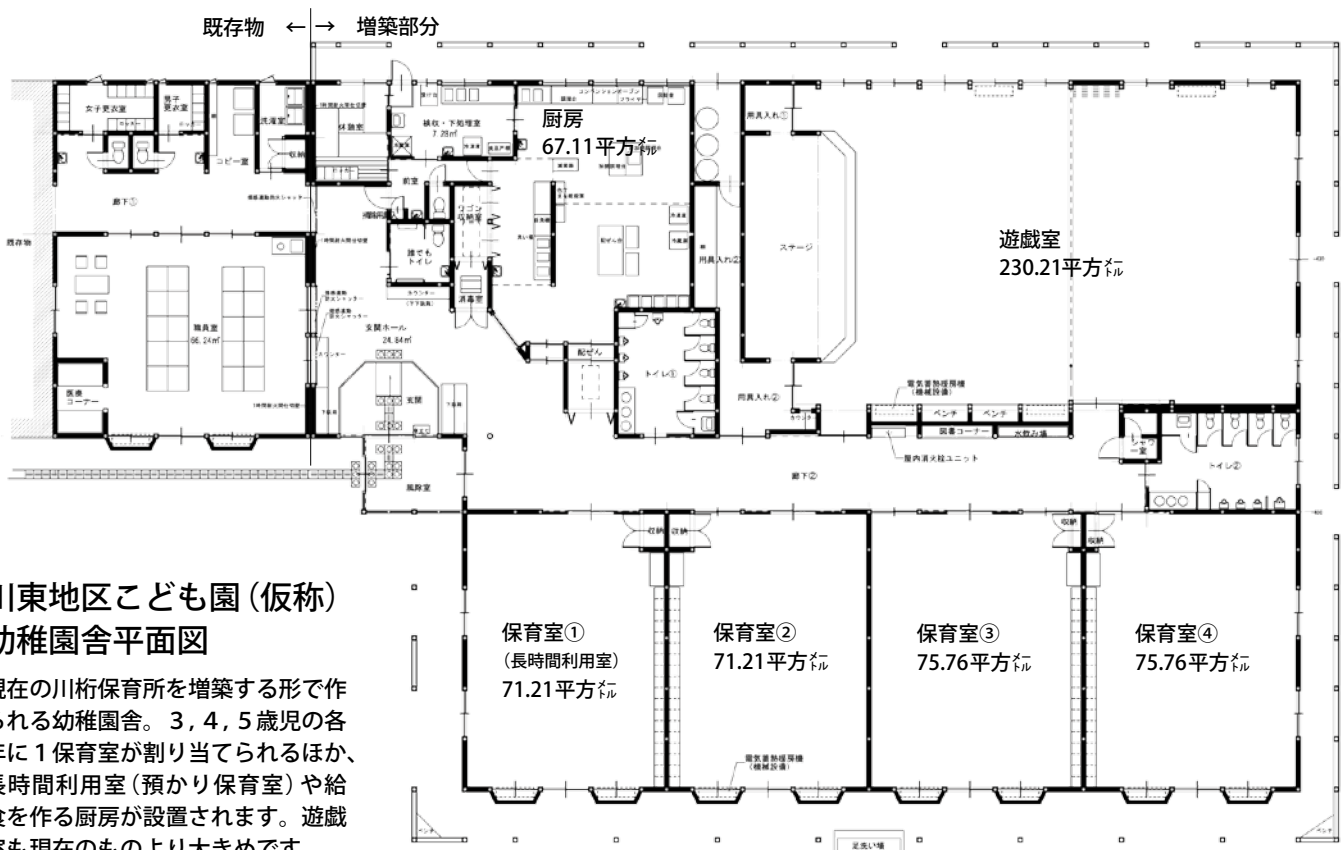
して、0歳児から2歳児を保育します。また、幼稚園舎を幼児教育部門として、3歳児から5歳児を保育します。

○休園日

- ・幼児保育部門 日曜日、祝祭日、年末年始（12月29日～1月4日）、3月30日～4月1日
- ・幼児教育部門 土・日曜日、祝祭日、長期休業日（夏休み・冬休みなど）

○保育時間

- ・幼児保育部門 通常保育 午前8時30分～午後5時15分（8時間程度） 早朝保育
- ・幼児教育部門



川東地区こども園（仮称）幼稚園舎平面図

現在の川桁保育所を増築する形で作られる幼稚園舎。3、4、5歳児の各年に1保育室が割り当てられるほか、長時間利用室（預かり保育室）や給食を作る厨房が設置されます。遊戯室も現在のものより大きいです。

午前7時30分～午前8時30分 延長保育

午後5時15分～午後6時

・幼児教育部門

短時間利用

午前8時30分～午後2時（4時間程度、午後2時ごろ降園）

早朝保育

午前7時30分～午前8時30分 長時間利用

午後2時～午後6時

（午後4時以降は随時降園可能）

土曜日・長期休業日

午前7時30分～午後6時

○保育料

当分の間（川西地区こども園が開園するまで）は、こども園以外の幼稚園・保育所との均衡を図るため、現在の保育料とします。幼稚園は月5600円、預かり保育は月5000円、保育所は年齢、所得階層による保育料となります。

○給食

0歳児から5歳児の園児全員が完全給食となります。給食費は、保護者の皆さんの負担となります。

○園児の送迎

0歳児から2歳児までは、保護者が送迎します。3歳児から5歳児までは、送迎バスを利用します（ただし、こども園に近い地区は除きます）。

※川西地区こども園の整備

川西地区こども園は、猪苗代、翁島、千里、吾妻幼稚園を統合し、猪苗代保育所と一体となる施設を整備します。整備する場所などについては、現在選定中です。

※現在の幼稚園・保育所の運営時期

みどり幼稚園、長瀬幼稚園と川桁保育所は、川東地区こども園が24年4月に開園しますので、24年3月までとなります。

猪苗代、翁島、千里・吾妻幼稚園と猪苗代保育所は、川西地区こども園が開園するまでの運営となります。

中ノ沢保育所については、川東・川西地区への送迎が距離的に遠く困難なことから、現在そのまま継続しますが、入所する子どもがいる限り存続します。

こども園の整備状況などについては、随時広報紙などで皆さんにお伝えします。

▼問い合わせ先

町教育委員会 教育総務課

☎（62）5677





猪苗代町教育長
土屋 重憲

Tsuchiya Shigenori

町では、21年9月に猪苗代町教育施設適性配置等推進委員会から頂いた提言書によって、町子ども園の整備を行っており、概要については、お読みいただいたとおりですが、こども園の基本的な方向性について確認しておきたいと思っています。

まず、若い保護者たちが、働きながら安心して子どもを産み育てることができる環境をつくること、このことは町の将来に直結する緊急で重要な課題であると考えます。

そのために、もともと福祉施設である保育所と教育施設としての伝統を持つ幼稚園をそれぞれの長所を生かしながら、同施設で一体的に運営する「こども園」の整備に着手したわけであります。

この園は、一言で言いますと、「保育」の機能と「教育」の営みについて、それぞれの伝統を生かしながら一体化するものです。

町の未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えるためにも、多様化する保護者のニーズに対応した施設をつくるのが、町の未来づくりに大いに資するものと考えております。

子どもたちにとっては、長い人生の滑走路となる、教育体系の入口あるいは根っこに当たる極めて重要な部分です。子どもたち一人一人の将来の自立へ向け、確かな力をつける出発点となります。

ご理解、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



Data 藤沢町は、岩手県の南端に位置する緑豊かな農山村。町の西端を東北一の大河北上川が悠々と流れ、温暖な気候を生かした農業が基幹産業。人口9,209人(12月1日現在)、面積123.15平方キロメートル。

子どもたちに 平等な教育を



「幼保一体」により幼稚園と保育園が同居する藤沢幼稚園と藤沢保育園。すべての子どもが分け隔てなく育てられている。

幼稚園と保育園の一体化教育、小学校と幼稚園・保育園の連携は、北上山地の南端にある小さな町から始まりました。

岩手県藤沢町。人口わずか9千人のこの町には3つの小学校と1つの中学校があります。3つの小学校を回ると、小学生と園児と一緒に遊ぶ光景が目にとまります。驚くべきことに、ここでは幼児教育施設は全て小学校の敷地内に設置されていて、幼児教育と児童教育の連携体制ができています。

幼児教育施設は、いずれも町立で幼稚園は2園、保育園は3園。つまり、保育園は全小学校に併設され、うち2つの小学校には保育園と幼稚園が同居しています。この「幼小連携」「幼保一体化」は全国初の

取り組みで「藤沢方式」と呼ばれ、1979年に始まりました。

「藤沢方式」の発想は、幼児教育の平等化が主眼でした。核家族化が進み、共働き世帯が増えたことで、就学前の子どもを幼稚園か保育園に預ける親が増。ここで問題となったのが、「保育時間の隔たり」と「教育内容や保育料の格差」でした。

そもそも幼稚園は学校教育法第77条で規定された教育施設であり、保育園は児童福祉法第39条で規定された福祉施設です。例えば幼稚園の保育時間は午前中、保育園は午後5時まで。教育内容は教育的色合いが強い幼稚園に対し、保育園はお遊びが中心。幼稚園に通園する子どものいる親からは「保育時間の延長」を、保育園に通園する子どもの親からは「学習面への配慮」を求める要望が相次ぎました。

そこで藤沢町は「子どもたちに園の選択や責任はない。それは大人社会の問題。全ての子どもたちに平等に教育を受けさせることが行政の使命」と「藤沢方式」を打ち出したのです。し

かし、家庭環境の違いで色分けする国の制度が施策を展開する上で大きく立ちはだかりました。国や県は断固として「幼保一体化」を認めず、折衝は2年に及んだといいます。

「制度ありきか、子どもありきか」で「初めに子どもありき」を選んだ町の方針は、マスコミからも注目され、たびたび好意的に報道されました。世論は施策の実現に大きな効果をもたらした、ついに県や国を動かしたのです。

「幼保一体化教育」とは、幼稚園と保育園が同じカリキュラムで、幼児に学習させること。町と町教委は「藤沢町幼児教育センター」を創設し、この教育を強力に推進しました。施設を小学校に併設したのは、小学校が地区の中心部にあつて通園には格好の場所であることと、やがて小学校へ入学するための準備過程としての配慮から。全ての保育園長を小学校長に委嘱しているのも、その表れです。

31年前にスタートした「幼保一体化教育」は、すっかり定着。藤沢町民は、この方式が自分たちの町で生まれた全国初のユニークな施策であることなどまったく意識せず、今日も子どもたちを幼稚園や保育園に送り出しています。